

インテル(INTC)

【セクター】 情報技術

【市場】 NASDAQ

【企業概要】

世界最大級の半導体メーカーです。パソコンやサーバー向けCPU（中央演算装置）が主力事業で、同分野の世界シェアは7割以上を保有、ファウンドリに生産を委託するのではなく自社による一貫生産を強みとしています。15年に書き換え可能な集積回路のアルテラ、17年に自動運転向け半導体のモビルアイを買収する一方、不揮発性メモリー事業を売却の意向です。アップル向けに開発を進めていたスマホの5Gモデムチップ事業からは19年5月に撤退を発表し、アップルに10億ドルで売却予定です（10-12月期に完了見込み）。

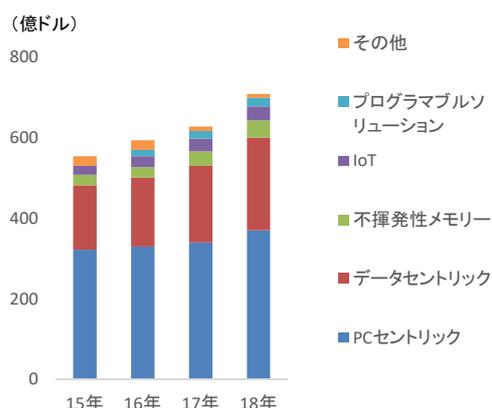
【業績】（単位：売上、純利益は百万ドル、EPS、DPS、BPSはドル、ROE、自己資本比率は%）

決算期	売上高	純利益	EPS	DPS	BPS	ROE	自己資本比率
17年12月期	62,761	13,472	2.79	1.08	14.9	19.7	56.7
18年12月期	70,848	20,421	4.35	1.20	16.6	28.2	58.6
19年12月期予想	70,972	20,601	4.61	1.26	17.0	26.8	-

※EPS：1株当たり利益、DPS：1株当たり配当、BPS：1株当たり純資産、ROE：株主資本利益率（出所）BloombergデータよりSBI証券が作成

【主要指標】

図表1 部門別売上



(出所) BloombergデータよりSBI証券が作成

図表2 半導体の売上上位企業（17年）

	売上 (億ドル)	世界シェア (%)
サムスン電子	622	14.9
インテル	572	13.7
SKハイニックス	264	6.3
マイクロンテクノロジー	223	5.4
ブロードコム	184	4.4
クアルコム	170	4.1
テキサスインスツルメンツ	145	3.5
東芝	123	2.9

(出所) BloombergデータよりSBI証券が作成

【会社の見方】

19年5月の投資家向け説明会で、今後3年間の売上は1桁台前半の伸びで760～780億ドルへ、データセントリック事業が1桁台後半の伸び、PCセントリック事業が横ばいから若干のマイナスを想定するとしていました。また、22年～23年の売上は850億ドル、EPSは6.00ドルを見込み、売上の過半を占めるのはデータセントリック事業との見通しを示しています。昨年後半から減速していたデータセンター向けは、クラウドや通信事業者による投資が再び活発化して、好調は来年も続くと期待されます。当面の課題として、CPUの供給不足の問題解決、ライバルのAMDによる7ナノメートルチップの脅威への対応などがあげられます。

【見通し・注目点】

7-9月期決算は、PCセントリック部門が前年同期比5%減収となるも、データセントリック部門がデータセンター向けCPUやフラッシュメモリーの牽引により前年同期比6%増と、4-6月期の同7%減から改善しました。同社CEOは、「データの指数関数的な増加から恩益を受けられるよう、ここ数年事業ポートフォリオの再構築を行ってきたが、その成果が表れてきた」と先行きに自信を示しています。

(SBI証券 投資情報部 榮 聡)

(更新日 19/11/27)

本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。万一、本資料に基づいてお客様が損害を被ったとしても当社及び情報発信元は一切その責任を負うものではありません。本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製又は販売等を行うことは固く禁じます。